



温もりのある木天井のキャノピー



箱とガラスに挟まれた街の縁側



全景



敦賀駅交流施設「オルパーク」・駅前広場キャノピー

選評

福井県敦賀市の玄関口である敦賀駅と直結した市立の交流施設「オルパーク」と駅前広場のキャノピーを一体的に整備した計画である。敦賀駅の跨線橋が正面にぶつかる位置に駅舎のような建築として存在する。実際の駅舎は一層で脇に接続しておりほとんど存在感がないため、「オルパーク」が駅舎としてのランドマークとなっている。計画を進める段階で、市民説明会やワークショップを数多く重ね建築家の案が否定されることもあったと言う。その中でも今も市民に愛着を持って記憶される木造駅舎の話があり、建築家はそのイメージを二つの「木の箱」として抽象化して計画し合意を得るに至った。

北陸新幹線が開通した折には跨線橋から「オルパーク」へまっすぐ通路が設けられ改札も整備されるとのことで、機能的にも駅舎といえる交流施設である。

駅前広場は建築家も参加した駅周辺整備構想策定委員会の中で策定されたことだが、南側はまだ空き地となっており駅前広場との連続性がなく、計画の妥当性を判断することは難しい状況である。北側の既存の商店街に対しては不整形の街路に呼応した湾曲するキャノピーが小気味よく感じられる。

キャノピーは梯子状の軽量鉄骨造の梁を両側から木板で挟んだ軽快なもので、アイレベルから見ると、この梁がさまざまな方向に積層し、リズム感を持って人を誘導していく天井となっている。梁は軽快さを出すために方向・支持方法、主梁・小梁など種類が多く、納まりも異なり、構造設計者と施工者の努力と熱意なしには実現で

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはなアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中大工道具館新館 敦賀駅交流施設「オルパーク」・駅前広場キャノピー TSURUMIこどもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコムーゼタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞]日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館

建築主 より

未来への道標 ～交流・賑わい拠点として～

敦賀駅交流施設「オルパーク」は、駅に隣接したシンボルとして2014年4月（駅前広場は2015年10月）に、当地に息づきました。そのデザインは、長く市民に愛された2代目駅舎（明治43年築）をモチーフに、2つの箱をガラスで包んだ象徴的な建物へと仕上げ、歴史と未来が見事に表現されています。

また、「オルパーク」という愛称は、敦賀の方言である「おる（居る）」に、ヘブライ語で絆を

意味する「オル（ol）」を掛け合わせ、親しみやすく楽しい場所「パーク（公園）」になってほしいとの願いを込めています。その精神は失われることなく、快適で過ごしやすい場所として、利用者也順調に推移し、現在に至っています。

北陸新幹線敦賀開業に向けて、市は、本賞受賞を追い風に、今後とも交流施設を未来への道しるべとした駅周辺整備を行ってまいります。



敦賀市長
淵上隆信
Takanobu Fuchikami

設計者 より

市民の強い想いを実現した駅前空間



株式会社
千葉学建築計画事務所
統括
千葉学
Manabu Chiba

オルパークは、市民の記憶に強く刻まれているかつての木造駅舎の面影を、2つの木の箱状の空間によって表象し、それらをガラスで包むことで北陸の気候に呼応した緩衝空間と人々の滞留空間を生み出しています。また駅前広場においては、小さな構造ユニットを集積してキャノピーをつくり、オルパークとの調和を図ると同時にヒューマンなスケールと心地よいリズム感を街に生み出しています。さらに駅前に必要

な数多くの情報をキャノピーの壁柱と一体的にデザインすることで、誰にでも分かりやすく、それでいて暖かみのある駅前空間を実現しました。こうして交流施設と駅前広場を一体的かつ統合的に実現した例は、全国的にみても稀なケースです。それは、敦賀市の方々のまちづくりに向けた強い想いと、市民説明会やワークショップを通じて交わされた多くの市民の声の賜物でもあります。

施工者 より

敦賀市の皆様に愛される建物に…

本建物に対する敦賀市および千葉学建築計画事務所をはじめとする関係各位の想いを形にするため、私たちは「市民の想いが詰まった設計の具現化」「長期的な品質の確保」を念頭に、お施主様、設計者および各専門工事業者と一致団結して丁寧かつ慎重に工事を進めました。

もっともこれらの実現には、意匠・構造ともに一般より高い施工精度が必要であったことから、

関係者と共にコンクリートや外壁パネル等の建材や工法に対して試験・実験を含む検証や検討を繰り返し行い、それらの取組みは、私たち建築技術者に対しても貴重な経験というお裾分けをいただきました。

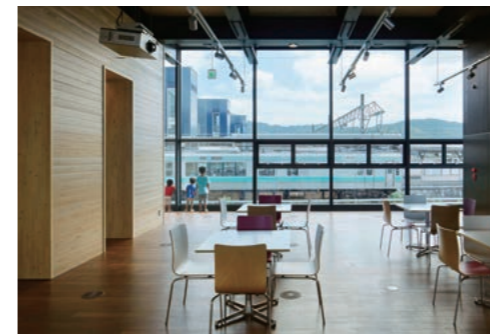
私たちは、第58回BCS賞の受賞の喜びと誇りのもと、これからも多くの方々に愛され喜んでいただけるよう努力を重ねていきたいと思っております。



大鉄工業株式会社
北陸支店 建築部
次長(当時:作業所長)
今中良彦
Yoshihiko Imanaka



やわらかい光が溢れる待合空間



駅が見渡せる二階の休憩スペース



様々な人が自由に行き交う動線

きないものである。キャノピーを支える柱も梁に合わせた板状のものを斜めにカットし、いろいろな方向を向け空間に動きと楽しさを生み出している。柱は板状の形状に合わせて、サイン、バス停、時刻表、ベンチなどの機能を持ち、駅前広場にありがちな広告、案内板、お知らせなどの夾雑物が氾濫する状況を一扫するのにも成功している。これは周辺商店街の経営者の理解なくしては実現できない景観であることも付け加えたい。

「オルパーク」は中央の吹き抜

けを挟んでふたつの「木の箱」が向き合い、それをガラスの箱が覆う構成で、「木の箱」の中とガラススクリーンとの間の中間領域とふたつの性格を持つ空間から成っている。待合室や店舗など長時間人が滞在するスペースが「木の箱」の中に配置され、中間領域は動線などの空間に当てられている。また、空調的には中間領域がバッファアールとなり敦賀の厳しい気候を柔らげ、自然通風・採光を利用する空間にもなっている。

【選考委員】
西沢立衛・能勢修治・尾崎勝

計画概要

建築主：敦賀市

設計者：(株)千葉学建築計画事務所/
ジェイアール西日本コンサルタンツ(株)/
(株)サンワコン/(有)金箱構造設計事務所/
(株)環境エンジニアリング

施工者：大鉄工業(株)
濱田建設(株)

所在地：福井県敦賀市鉄輪町1-1-19他
竣工日：2015年10月4日

敷地面積：オルパーク：5,028㎡ キャノピー：5,898㎡
建築面積：オルパーク：764㎡ キャノピー：1,203㎡
延床面積：オルパーク：1,161㎡ キャノピー：1,203㎡

階数：オルパーク：2階 キャノピー：1階
構造：オルパーク：鉄筋コンクリート造
キャノピー：鉄骨造